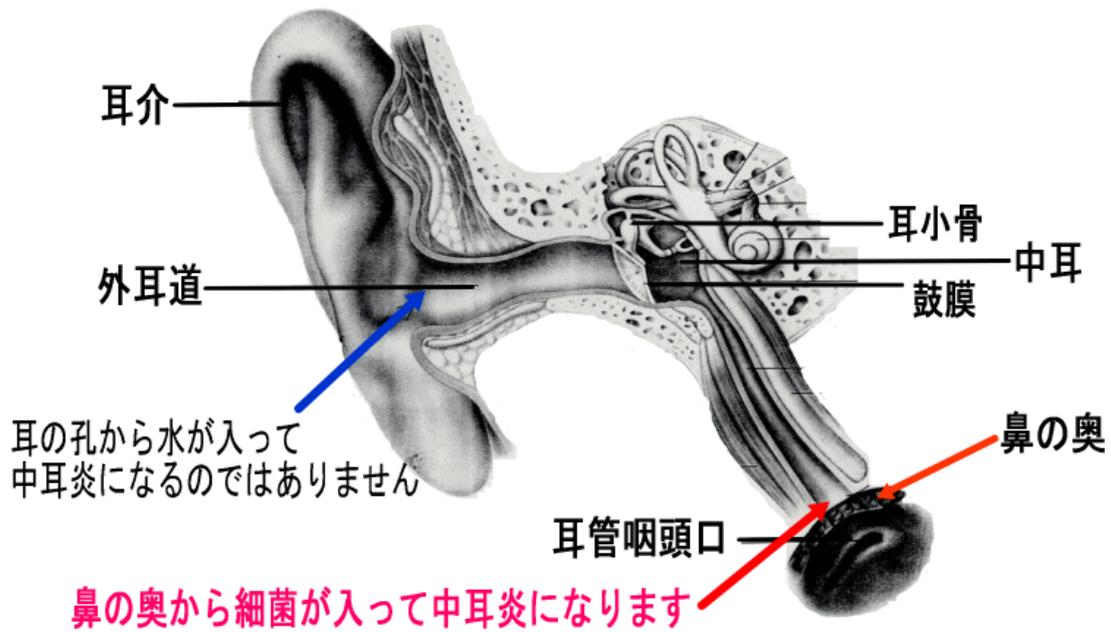


# 急性中耳炎



急性中耳炎は“鼻カゼ”の時、鼻と耳をつなぐ管から、細菌・ウイルスが鼓膜の中（中耳）に入るために起こる病気です。耳の孔から水が入ってなるのではありません。

中耳炎は赤ちゃんと幼児に多い病気です。学童期になると減ってきます。

中耳炎は非常に“くりかえしやすい病気”です。

中耳炎はくりかえしても、耳の聞こえが悪くなる事はまれです。

“かぜ”が予防出来ないように、中耳炎も完全に予防する事は出来ません。

“今日治った中耳炎”が、翌日再発する事もあります。

耳鼻咽喉科専門医でも、“明日、中耳炎になるか？”の予想は出来ません。

原則として、抗生物質・鎮痛剤・鼻炎薬・咳止めで治療します。

化膿した場合は、必要に応じて、耳鼻科特有の治療を行う事もあります。

お風呂は熱があれば禁止です。

プールはしばらく禁止です。

（水泳と中耳炎の説明書は別にありますので、御希望の方にはさしあげます。）

当分の間、一日おきぐらいの間隔で通院してください。

中耳炎の治療には、薬をのむ事がたいせつです。きめられた量をのんで下さい。

保育園・幼稚園・学校は熱が下がるまで休ませて下さい。

中耳炎の治療には、薬をのむ事がたいせつです。きめられた量をのんで下さい。

薬の副作用がうたがわれる時は、電話でかまいませんから御連絡下さい。

中耳炎の治療中に、他の医師の治療を受ける時には、投薬内容を聞いておいて下さい。

中耳炎の治療中に、“かぜ”の治療のために、中耳炎の治療を中断するのは危険です。

“かぜ”で熱が高い時こそ、中耳炎もひどくなっている事が多いのです。

熱の高い時には、お待たせしないで、すぐに診察しますから受付にお申し出でください。

“痛み・熱・耳だれ”等の症状がなくなっても、中耳炎が治ったという事にはなりません。症状がない中耳炎も多いのです。

中耳炎が治ったかどうかを、御自分で判断なさらないで下さい。

中耳炎の治療の中断は、滲出性中耳炎（しんしゅつせいちゅうじえん）の原因となります。

赤ちゃん、幼児が、“かぜぎみ”時には、“熱があってもなくても”、“痛がっても痛がらなくても”、中耳炎を早く診断するために、耳鼻咽喉科医の診察を受ける習慣をつけて下さい。

“かぜぎみ”の時に、“機嫌が悪かったり、夜泣きをしたら”、“かぜ”のためのふきげんと思わず、かならず中耳炎も疑って、耳鼻科医の診察を受けてください。

熱のない中耳炎も少なくありません。

夜泣きをしたら、翌朝元気になっても、いちおう耳鼻科医の診察を受けて下さい。

ともかく、“かぜ”をひいたら中耳炎”を疑う事がたいせつです。

中耳炎が、“かぜ”を原因とする以上、小児科医と耳鼻咽喉科医の、緊密な連絡が重要です。

矢野耳鼻咽喉科	藤沢市善行 1-25-11	8 1	3 5 4 1
医学博士	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	潮
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	ゆかり
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	さゆり